



金沢大学  
教学マネジメントセンター  
の役割・機能について

# 教学マネジメントセンター設置要項（抜粋）

## （目的）

第2条 センターは、【1】本学全体、学域・研究科等における学位プログラム及び授業科目レベルでの内部質保証の仕組みを確立し、【2】学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組むとともに、【3】教育方法、教育システム及び教育支援等の高等教育に係る調査研究・開発を行い、もって本学の教育の充実・発展と学修の充実を図り、本学が掲げる基本理念及び目標の実現に資することを目的とする。



## （業務）

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 全学の教学マネジメントの確立、学位プログラム等における教育の質保証及び質向上に関すること。
- (2) 教育方法、教育システム及び教育支援等に関する研究開発並びに教育に係る質保証システムの研究開発に関すること。
- (3) 全学的に取り組む教育事業及び分野横断的学位プログラムの企画立案、運営及び評価に関すること。
- (4) 教育スキルの向上に資する支援に関すること。
- (5) 全学のFD・SDの企画・実施及び学域・研究科等のFD・SD活動の支援に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

# 教学マネジメントセンター—組織関係図（概略）

青木理事（教育・高大接続担当）・副学長

## 教学マネジメントセンター

(Center for Management of Teaching and Learning)

TLセンター長：片岡学長補佐

TLセンター運営会議

片岡センター長，堀井教授，林教授，  
学務課長

FD・SD，教学IR，教育DX

教育企画会議

FD委員会

教務委員会

連携

連携

支援

連携

学術メディア  
創成センター

連携

学域・学類，研究科，国際基幹教育院

# 「教学マネジメント指針」概要（中央教育審議会大学分科会, 2020年1月）

予測困難な時代を生き抜く自律的な学修者を育成するためには、学修者本位の教育への転換が必要。  
そのためには、教育組織としての大学が教学マネジメントという考え方を重視していく必要。

教学マネジメントとは

- 大学がその教育目的を達成するために行う管理運営であり、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みである。
- その確立に当たっては、教育活動に用いることができる学内の資源（人員や施設等）や学生の時間は有限であるという視点や、学修者本位の教育の実現のためには大学の時間構造を「供給者目線」から「学修者目線」へ転換するという視点が特に重視される。

教学マネジメント指針とは

- 学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組みつつ、社会に対する説明責任を果たしていく大学運営すなわち教学マネジメントがシステムとして確立した大学運営の在り方を示す。
- ただし、教学マネジメントは、各大学が自らの理念を踏まえ、その責任でそれぞれの実情に応じて構築すべきものであり、本指針は「マニュアル」ではない。
- 教育改善の取組が十分な成果に結びついていない大学等に対し、質保証の観点から確実に実施されることが必要と考えられる取組等を分かりやすく示し、その取組を促進することを主眼に置く。
- 本指針を参照することが最も強く望まれるのは、学長・副学長や学部長等である。また、実際に教育等に携わる教職員のほか、学生や学費負担者、入学希望者をはじめ、地域社会や産業界といった大学に関わる関係者にも理解されるよう作成されている。

学長のリーダーシップの下、学位プログラム毎に、以下のような教学マネジメントを確立することが求められる。

「大学全体」レベル

## 三つの方針

「卒業認定・学位授与の方針」（DP）、「教育課程編成・実施の方針」（CP）、「入学者受入れの方針」（AP）

教学マネジメントの確立に当たって最も重要なものであり、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点

### I 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

- ✓ 学生の学修目標及び卒業生に最低限備わっている能力の保証として機能するよう、DPを具体的かつ明確に設定

### II 授業科目・教育課程の編成・実施

- ✓ 明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるよう、体系的・組織的に教育課程を編成
- ✓ 授業科目の過不足、各授業科目の相互関係、履修順序や履修要件について検証が必要
- ✓ 密度の濃い主体的な学修を可能とする前提として、授業科目の精選・統合のみならず、同時に履修する授業科目数の絞り込みが求められる
- ✓ 学生・教員の共通理解の基盤や成績評価の基点として、シラバスには適切な項目を盛り込む必要

### III 学修成果・教育成果の把握・可視化

- ✓ 一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにするとともに、DPの見直しを含む教育改善にもつなげてゆくため、複数の情報を組み合わせて多元的に学修成果・教育成果を把握・可視化
- ✓ 大学教育の質保証の根幹、学修成果・教育成果の把握・可視化の前提として成績評価の信頼性を確保

- ✓ DPIに沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義
- ✓ 対象者の役職・経験に応じた適切かつ最適なFD・SDを、教育改善活動としても位置付け、組織的かつ体系的に実施
- ✓ 教学マネジメントの基礎となる情報収集基盤である教学IRの学内理解や、必要な制度整備・人材育成を促進

「学位プログラム」レベル

シラバス、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナビゲーション、キャップ制、週複数回授業、アクティブ・ラーニング、主専攻・副専攻

「授業科目」レベル

ルーブリック、GPA、学修ポートフォリオ

項目の例は別途整理

I～Vの取組を、大学全体、学位プログラム、授業科目のそれぞれのレベルで実施しつつ、全体として整合性を確保。

学位プログラム共通の考え方や尺度（アセスメントプラン）に則り、大学教育の成果を点検・評価

### V 情報公表

- ✓ 各大学が学修者本位の観点から教育を充実する上で、学修成果・教育成果を自発的・積極的に公表していくことが必要
- ✓ 地域社会や産業界、大学進学者といった社会からの評価を通じた大学教育の質の向上を図る上でも情報公表は重要
- ✓ 積極的な説明責任を果たすことで、社会からの信頼と支援を得るという好循環の形成が求められる

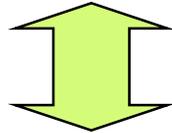
積極的な説明責任

社会からの信頼と支援

IV 教学マネジメントを支える基盤 (FD・SD、教学IR)

# 各種政策・指標の関係図

中央教育審議会  
『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）』



## 『教学マネジメント指針』

- I 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化
- II 授業科目・教育課程の編成・実施
- III 学修成果・教育成果の把握・可視化※
- IV 教学マネジメントを支える基盤
- V 情報公表※

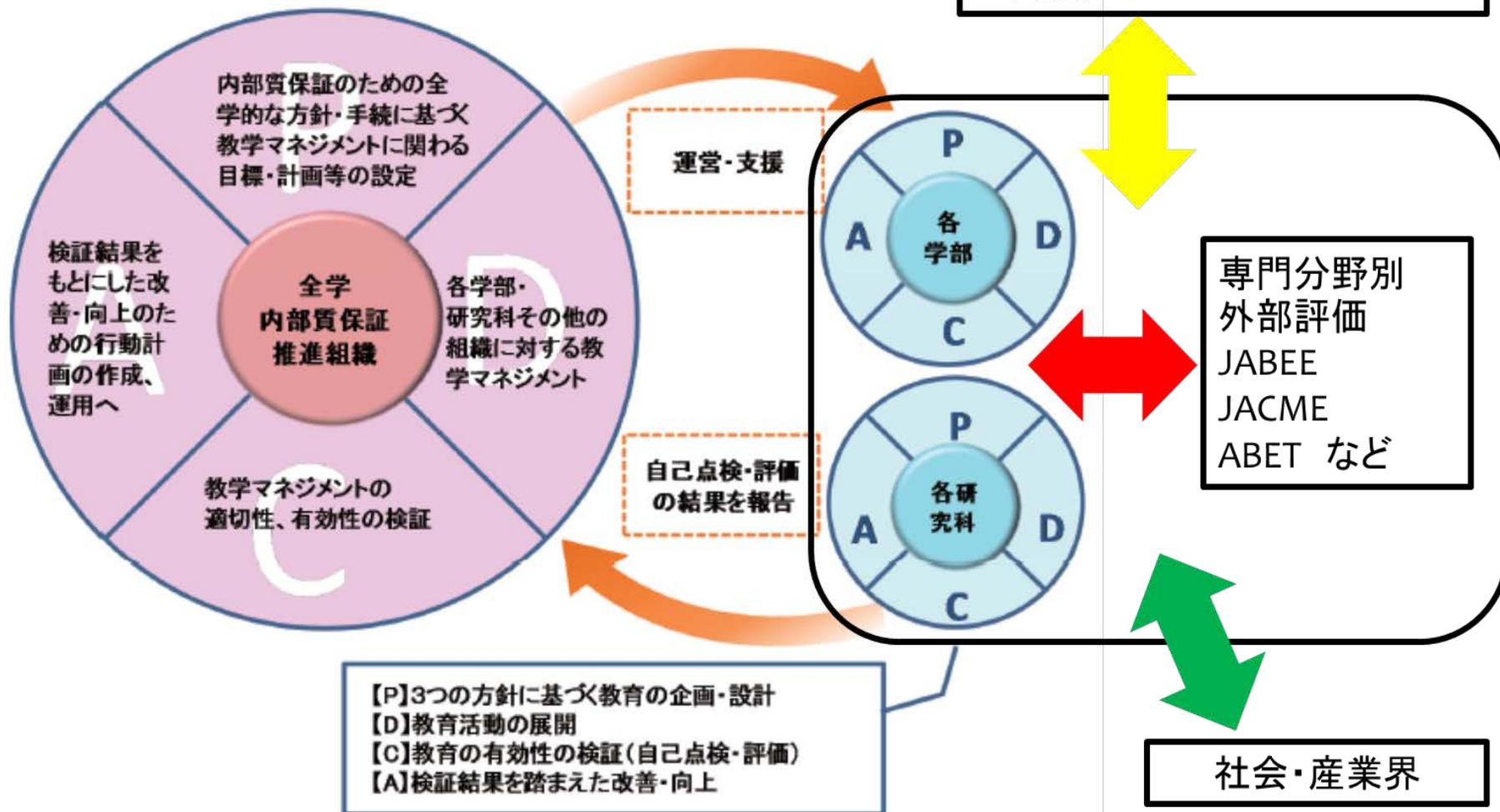
第4期中期計画（文科省）  
第3期認証評価基準  
（JAAA）  
運営費交付金における  
成果配分指標（文科省）

国立大学法人  
ガバナンスコード  
（文科省・内閣府・国大協）

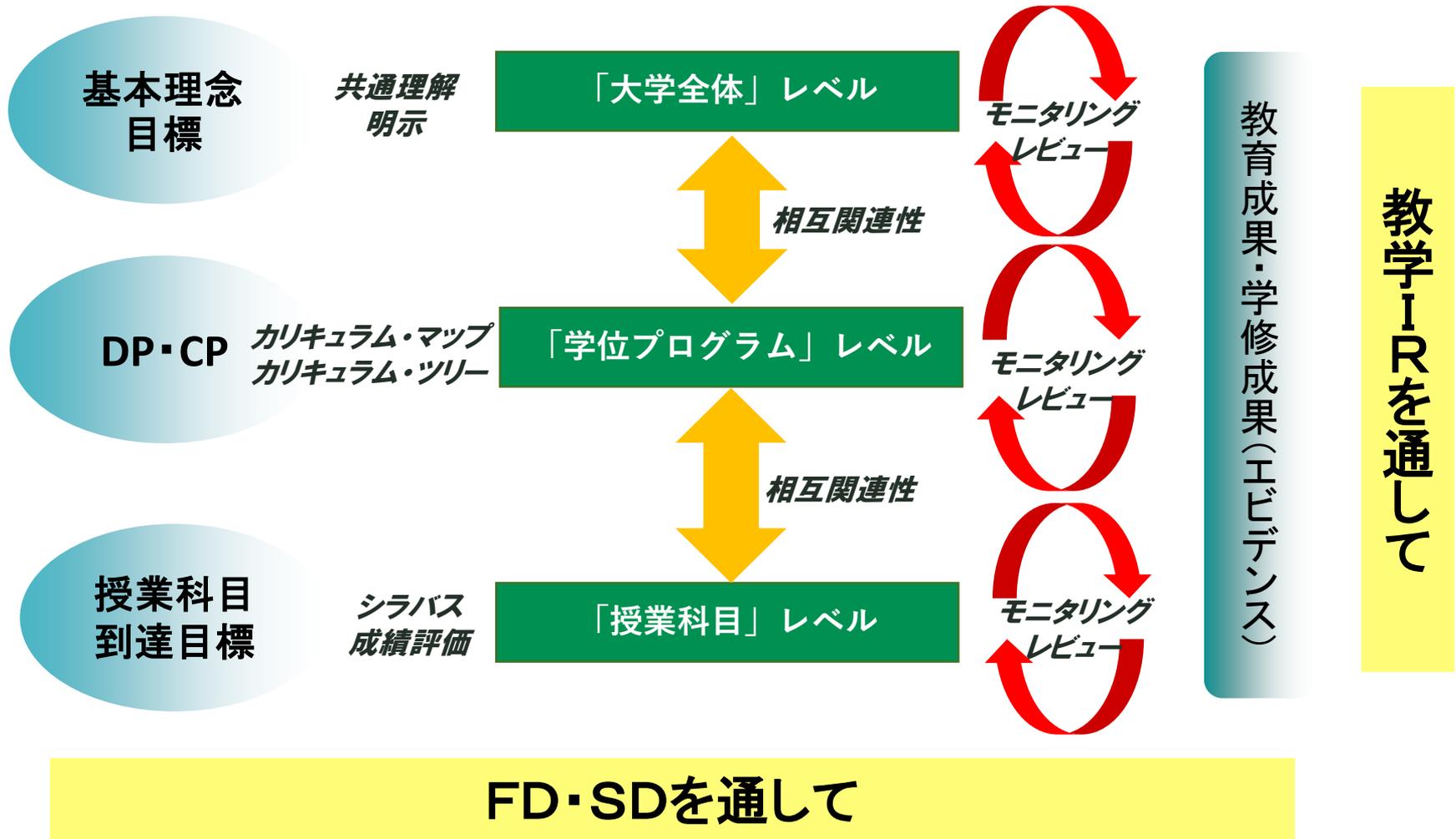
※教学IR体制の確立

# 認証評価が求める内部質保証組織による教学マネジメント

全学内部質保証推進組織を中心とした内部質保証システムのイメージ  
(大学基準協会(2021)『大学評価ハンドブック』を基に一部加筆)



# 教学マネジメントセンターの所掌業務①



# 教学マネジメントセンターの所掌業務②

項目 レベル	教育理念 学修目標	FD・SD (教育改善・組織開 発・学生支援)	教学IR (学修成果測定・ 分析・情報公表)	支援業務
大学全体 (マクロ)	金沢大学憲章 KUGS	全学FD研修会 新任教員説明会 など	学生生活実態調査 など	中期計画 (教学) 認証評価 (教学) 大学間連携事業 など
学位プログラム (ミドル)	学位授与方針(DP) 教育課程編成方針(CP)	全学FD研修会 学域・学類FD など	卒業時調査 など	分野横断型学位プロ グラムの企画運営 など
授業科目 (ミクロ)	到達目標 ルーブリック評価	FDワークショップ FDランチョン CLA研修 など	学生授業評価 など	コンテンツ作成 学修アドバイジング など